

製品名: SPAK ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18164**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	STK39
別名	STK39; SPAK; STE20/SPS1-related proline-alanine-rich protein kinase; Ste-20-related kinase; DCHT; Serine/threonine-protein kinase 39
遺伝子 ID	27347.0
SwissProt ID	Q9UEW8
免疫原	抗血清はヒト STK39 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 277-326

背景

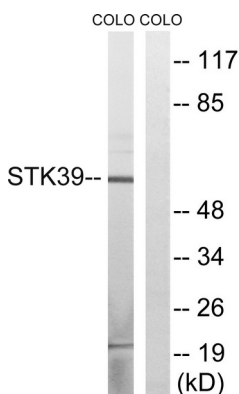
この遺伝子は、細胞ストレス応答経路において機能すると考えられるセリン/スレオニンキナーゼをコードしています。このキナーゼ

は低張ストレスに応答して活性化され、複数の陽イオン-塩素共役型共輸送体のリン酸化を引き起こします。触媒活性を有するこのキナーゼは p38 MAP キナーゼ経路を特異的に活性化し、細胞ストレス下では p38 との相互作用が減少することから、このキナーゼは細胞ストレス応答における中間体として機能する可能性が示唆されます。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,ドメイン: PAPA ボックス (プロリン-アラニン反復配列) は、アクチンやアクチン様タンパク質などの細胞内タンパク質との相互作用を促進することで、キナーゼを特定の細胞内部位に誘導する可能性があります。 ,機能: ストレス活性化シグナルのメディエーターとして機能する可能性があります。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 STE20 サブファミリー。 ,類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。 ,細胞内局在: カスパーゼ切断により核に局在します。 ,組織特異性: 主に脳と膵臓に発現し、次いで心臓、肺、腎臓、骨格筋、肝臓、胎盤、精巣に発現します。 ,

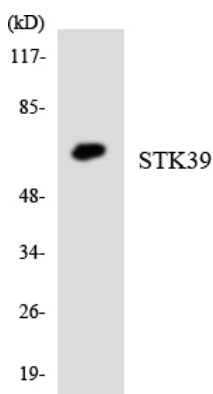
研究分野

シグナル伝達; タンパク質リン酸化; Ser/Thr キナーゼ; その他のキナーゼ; 代謝; 細胞膜; チャンネル

画像データ



STK39 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



STK39 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。